

主体的・実践的な力を育てる特別活動の指導 ー自分たちの力でよりよい学級づくりを目指す話し合い活動ー

吉野町立吉野小学校 教諭 片山 純

Katayama Jun

要 旨

諸問題を解決し、よりよい生活をしようとする主体的、実践的な力を育てるためには、意欲的に話し合いに参加し、自分の納得のできる結論を導き出す経験を積み重ねることが重要である。そのために、本研究においては、自分たちの話し合いを振り返り、よりよい話し合いを目指すためにワークショップを取り入れ、活性化を図った。

キーワード： 主体的・実践的な力、ワークショップ、納得のできる結論

1 はじめに

主体的・実践的な力は、教師が与えたり、指示したりすることでは育たない。その一方で、子ども任せでは、主体的・実践的な力が育つとは言い難い。これまで筆者は、特別活動を通して子どもたちに主体的・実践的な力を育てようとして取り組んできた。しかし、学級活動や行事において、子どもたちの気持ち十分に高まらない状況がみられ、何らかの手立てが必要であると考えた。そこで、一人一人が考えを出し合い、自分たちの話し合いの問題点を知り、解決するためにワークショップを取り入れることにする。子どもたちは、ワークショップに取り組むことで、自分たちの話し合いの問題点を強く意識することができ、問題解決に向けて意欲的に話し合えるようになることを考える。一人一人が意欲的に話し合いに参加し、納得のできる結論を導き出すことで、子どもの主体的・実践的な力が育成されると考え、本研究に取り組んだ。

2 研究目的

主体的・実践的な力を育てるためには、ワークショップを取り入れ、これまでの話し合いを見直し、学級全員が納得できる話し合い活動にすることが必要であるとの仮説を実践研究により検証する。

3 研究方法

- (1) 1学期の授業分析
- (2) ワークショップの取組
- (3) 2学期の授業分析

4 研究内容及び考察

- (1) 1学期の授業を分析する
ア 学級の実態

本学級は、明るく、活発に行動する子どもが多く、休み時間にはよく外で遊ぶ姿を見せてくれている。しかし、大きな声で元気よく遊んでいる子どもでも、授業になると恥ずかしさや自信のなさから声が小さくなっている姿が見られた。また、授業の前半では多くの子どもが進んで意見を発表できるが、授業の後半になると進んで意見を発表する子どもが固定化する傾向があった。そこで、自分の思いをできるだけ学級全体に伝えられる手段としてハンドサインを使ったり、意見交流を活発にさせる手段としてホワイトボードを活用し、少人数のグループで考えをまとめさせたりしてきた。

イ 5年生までの取組と子どもに付いている力

平成17・18年度の2年間、本校では特別活動（話し合い活動）を研究してきた。そのことから、子どもたちは、学級会が自分たちの思いを出し合う時間であるということを理解している。また、繰り返し計画委員会を経験したことから、話し合いを進める力は付いている。

ウ 1学期の学級活動の様子

第1回学級会「学級目標を作ろう」の話し合い

第1回学級会では、自分たちの学級をどんな学級にしたいかをみんなで話し合い、学級目標を作った。子どもたちからは「明るい学級」「楽しい学級」「元気な学級」「笑いのある学級」など、自分たちが4年生までの学年で学級目標としてきた内容が多く出された。そんな中、学年も一つ上がり高学年となったことを意識した目標も出てきた。子どもたちの目標を整理し、「楽しく、明るく元気な学級」「はじめある生活をして、下級生の見本になろう！」という2つの目標に決まった。このような2つの目標に決まったのは、教師が学級開きの時に高学年としての心構えを話したことも影響したようである。

第2回学級会「係を考えよう」の話し合い

自分たちの学級をよりよくするために係を決めることにした。今までの学年で取り組んできたことを基にしつつも、それらにこだわらない新しい係、みんなの学校生活に役に立つ係、学校生活を楽しく魅力的にする係を作り出すことを目指した。その結果、「落とし物ハンター（落とし物係）」「チェックアウト（チェック係）」「ブックマン（本係）」「ミッションスタート！（遊び係）」「たいG U少年団（体育係）」「スマッシュレスキュー隊（保健係）」という係がつくられ、活動を行うことになった。

第3回学級会「おわかれ会をしよう！」の話し合い

第3回学級会の議題は、家庭の事情により急に転校をすることになった友達とおわかれ会をするために子どもが提案したものである。前年度にも転入・転出の経験があることで、議題が出されてから話し合いまでを短時間で行うことができた。話し合いでは男子の意見が多く、女子の意見は少なかった。そんな中、Tくんが「転校する友達がやりたい内容にしたらいいと思います」と意見を出した。そこで、転校する子どもの意見を聞き、キックベースを行うことに決まった。また、色紙にメッセージを書いて渡すことも決まった。転校する友達の気持ちを考えた意見が出たのはとてもよかった。話し合いを通して、みんなが楽しめるおわかれ会にしようと考えたのだが、気持ちが乗らず十分に楽しむことができなかった子どももいた

ように思われる。

第4回学級会「自分たちの力で運動会を盛り上げる方法を考えよう！」の話し合い

代表委員会から提案された内容ではあったが、学級全体で考えようと議題にあげられたものである。高学年として学校全体のことを考えるにはよい内容であったと考える。実際には、例年行われている内容（草引き、石拾い、ポスター、プログラム校区全戸配布、カウントダウン）だけでなく、プログラムにイラストを描く、プログラム配布時にメッセージを書いて渡すなど、これまでにないアイデアを考え出すことができた。しかし、代表委員会では認められず、子どもの意欲を高めることができなかったのは残念であった。

第5回学級会「キャンプファイヤーを盛り上げよう！」の話し合い

各グループで取り組むスタンプだけでなく、学級みんなで思い出に残るキャンプファイヤーにするために話し合いを行った。5年生当初から楽しみにしていた行事だけに、歌を歌う、ゲームをするなど、ほぼ全員の子どもが自分たちが楽しむための内容をしっかりと考えていた。今までの話し合いではあまり反対意見も出されないまま決定されてきたが、今回は自分の思いを進んで発表し、反対意見も出され、活発な話し合いになった。「反対意見を出してもいい」という雰囲気生まれ、自分の思いを大切にすることができた。反対意見が出たことで、話し合いが活発になったのは、とてもよかったと思う。

第6回学級会「お楽しみ会をしよう！」の話し合い

子どもたちが一番多く出していた議題である。第5回学級会「キャンプファイヤーを盛り上げよう！」という議題で活発な話し合いになったことから、今回も活発な話し合いが行われると期待していた。しかし、前回、対立した意見が出て活発になった話し合いも、今回は第4回までと同じように男子の意見が多く、バスケットボール型ゲームとバドミントンに決まった。納得しなかった子どものためにルールを工夫を行うように担任が働きかけ、ルールが作られたが、みんなが楽しむお楽しみ会にはならなかった。

エ 1学期の学級活動を振り返る

1学期には、全てのグループが計画委員を経験することができた。計画委員は、これまでの経験から話し合いの進め方が分かっているので、比較的スムーズに進めることができていた。一方で、意見を発表する子どもに偏りがあったり、意見をもってはいてもなかなか発表することができない子どもがいたりした。そのために、一人一人の思いが十分に反映されないまま、話し合いが進んでいくことが見受けられた。さらに、実際の活動場面でも、意見を出した一部の子どもたちが楽しむだけで十分に盛り上がらなかった。このような子どもの姿から、よりよい学級活動にするための手立てが必要であると考えた。

(2) ワークショップの取組

ア 1学期の振り返りアンケート

これまでの話し合いや活動を見直すために「1学期の振り返りアンケート」を行い、その結果を分析した。

表 1 学期振り返りアンケート

《アンケート分析》

- ①から、進んで議題を出すことができている実態がうかがえる。
- ②から、ほぼ全員が自分の意見をもって学級会に参加できていることがうかがえる。
- ③から、友達の見解を聞いて自分の見解を考えている子どもが多いことが分かる。
- ④から、自分の見解を進んで発表している子どももいるが、8名はできていないことが分かる。
- ⑤から、すっきりした話し合いができていると思っている子どもが多いことが分かる。
- ⑥から、学級みんなが納得した話し合いはあまりできていないと思っていることがうかがえる。
- ⑦から、進んで活動をしている子どもが多いことが分かる。
- ⑧から、約半数が楽しく活動できていないと思っていることがうかがえる。

| | 1 ほとんど できない | 2 やや できない | 3 あまり できない | 4 ほとんど できる |
|----------------------------------|-------------------|-----------------|------------------|------------------|
| ①進んで議題を出すことができ ていますか。 | 0 | 5 | 13 | 8 |
| ②自分の見解を持って学級会に 参加できていますか。 | 11 | 13 | 2 | 0 |
| ③友達の見解を聞いて、さらに 自分の見解を考えていますか。 | 2 | 19 | 4 | 1 |
| ④自分の見解を進んで発表して いますか。 | 11 | 7 | 7 | 1 |
| ⑤自分がすっきりした話し合いが できていますか。 | 3 | 19 | 3 | 1 |
| ⑥学級みんなが納得した話し合 いできていますか。 | 3 | 13 | 10 | 0 |
| ⑦話し合いの後、進んで活動でき ましたか。 | 6 | 15 | 5 | 0 |
| ⑧学級みんなが楽しく活動でき ていますか。 | 2 | 8 | 16 | 0 |

表1を分析した結果、⑤と⑥を比べてみると、⑤では一人一人がすっきりとした話し合いができていると答えた子どもが多いのに対し、⑥では学級みんなが納得した話し合いができていないと思っていた子どもが多いことが分かった。また、⑦と⑧を比べてみると⑦では一人一人が進んで活動していると答えた子どもが多いのに対し、⑧では学級みんなが楽しく活動できていないと思っていた子どもが多いということも分かった。これらのことから、一人一人は納得した話し合いができていると感じているが、学級全体では納得した話し合いにはなっていないという矛盾した結果が見えてきた。

そこで、アンケート分析を踏まえて、自分たちの話し合いを客観的に見直すことができるようにワークショップを取り入れることにした。ワークショップを取り入れることで、一人一人が今までの話し合い活動を見直し、問題点を見つけ、どうすればよりよい話し合い活動になるのかを気付かせたいと考えた。

イ ワークショップでの子どもの様子

ワークショップは3～4人でグループをつくり、大きく「学級の実態」(2グループ)「話し合いの様子」(3グループ)「実際の活動」(3グループ)の3つに分かれ、それぞれ「よいところ」と「直したらいいところ」について意見を出し合った。子どもたちには、1学期に行った振り返りカードの結果と2学期に入って行ったアンケート結果を資料として渡し、話

合いの参考にさせた。

それらの資料をもとに話し合うことで、今まで意識しなかったことが子どもなりに見えてきた。少人数で話し合ったことにより、自分たちが選んだテーマについて、真剣に考え、検証することができ、どのグループからも共通した改善案が出された。子どもたちにとっては、客観的に自分たちの様子をとらえることができるよい機会となった。

その後、「話し合いの様子」だけを取り上げ、検討したことで、これまでの自分たちの学級会に対し、問題意識をもつことができた。



ウ ワークショップを通して、決まったこと

子どもたちは、これまでの学級会の姿にしっかりと向き合い、どのようにすればよりよい話し合いになるのかについての意見を出し合い、整理・分類した。その結果、

- ・前もって考えておき、しっかり意見を発表し合おう
- ・お互い注意し合おう
- ・みんなのことを考えよう
- ・意識して議題を出そう

の四つの具体的な目標を定めることができた。

エ 決まったことに迫るための手だて

今回、ワークショップを取り入れたことで、これまでの話し合いの姿を分析し、改善点を見つけ、具体的な目標を考え出すことができた。この目標を達成するために、子どもが常に意識できる工夫が必要となる。本学級の実態から考えると、話し合ったことを忘れてしまう傾向があるため、常に意識できるように、自分たちが決めた目標を教室に掲示したり、話し合いの後、学級会活動での自分の様子を振り返ることができるカードを用意したりするなどの工夫を行った。また、学級活動の前には計画委員会の子どもからみんなに目標を意識するような声かけを行うように働きかけた。

(3) 2学期の授業分析

第7回学級会「背面黒板の使い方を考えよう」の話し合い

ワークショップ終了後、初めての話し合いであった。議題についてはそれ以前に出されていたものではあるが、自分たちで作った目標を意識しながら話し合いが進められていることを感じた。子どもたちは事前に話し合いカードを書いており、しっかり意見を発表しようとしていた。そのため、女子3名を除く子どもたちが1回以上の発表をすることができた。話し合いでは、意見が対立してなかなか一つにまとめることができなかつたが、黒板を四つに分け、書く内容により広さを変えることでまとまった。ワークショップで定めた「しっかりと意見

を発表し合おう」「みんなのことを考えよう」という目標に向かってがんばろうとする気持ちが伝わってきた。

第8回学級会「2学期の係活動を考えよう」の話合い

前回以上にしっかり意見を発表することができた話合いであった。提案者が女子だったことで、今までになく女子から意見が多く出され、2回以上意見を発表する子どもも多かった。たくさんの意見が出された上で決めることができたことは、とてもよかった。さらに、こだわりをもった意見のやりとりもあり、自分の意見を言うだけでなく、友達の意見を聞いて、さらに自分の意見を考える姿も見られた。

第9回学級会「1年生と一緒に遊ぼう」の話合い

今回の議題は、今まで取り組んできた自分たちのための話合いとは違い、1年生のために何かしてあげたいという内容の議題であった。そのため、計画委員会で決めたねらいの「1年生の立場に立って考える」ということが達成できるかどうかポイントとなった。子どもたちは、事前に自分の意見を考え、活発に話合いができたことは大変よかった。



司会の子どもたちはめあてを頭に入れながら、全員が協力して進めようとしていた。ただ、話合いでは意見が折り合わず、時間内に決めることができなかったのは残念であった。しかし、司会の子どもたちには達成感があったように思う。

自分たちが楽しむことが目的ではなく、「1年生を楽しませてあげたい」「1年生を喜ばせてあげたい」という気持ちも十分に感じることができた。また、意見だけでなく、意見に基づく理由にもこだわって発表できていたように思う。ただ、実際に1年生に聞き取りをした子どもや1年生の弟や妹をもつ子ども、1年生と関係が深い子ども、そしてそれらに当てはまらない子どもとの間では、1年生の実態把握に差があったように思う。

「1年生と一緒に遊ぼう」会の活動の様子

これまでの取組と比べると、自分の役割を自覚してがんばって取り組んでいた。これは、自分たちの思いを出し合って、しっかりと話合いをした成果であると考えられる。また、5年生として「1年生を楽しませてあげたい」「高学年としてしっかりしたい」などの思いもあったと思われる。休み時間にも「1年生と一緒に遊ぼう会」に向けて、積極的に準備に取り組む子どもたちの姿が見られた。また、当日も、それぞれの役割を十分に果たし、1年生が楽しめる会にすることができた。そのことで、5年生も達成感を感じたようである。

〔5年生の感想より〕

・1年生は楽しんでいたので、この1年生と遊ぼう会は大大大大成功だと思います。また今度もやると言っていたので、またしてあげたいです。

・1年生のみんなが楽しんでくれていたと思うし、5年生も全員楽しめていたのでとても楽

しかったです。また、こんな機会があったらいいなあと思いました。

- ・自分たちが学級会で遊びやルール、ボールを何個にするかなどを考えて、1年生と一緒に遊び、最後に1年生に喜んでもらえてよかったです。

〔活動を終えて〕

ワークショップを通して、自分たちで考え、作り出した目標を意識をして話合いに参加することができるようになってきた。事前に考えをまとめて話合いに参加していたので、意見も多く出されるようになった。そのため、一人一人も学級みんなも納得した話合いができるようになってきたように思う。

今回のねらいである「1年生の立場に立って考える」ことも達成でき、1年生も大喜びであった。その後、休み時間にも一緒に遊ぶ姿が見られるようになった。



第10回学級会「お楽しみ会をしよう」の話合い

前回の「1年生と一緒に遊ぼう」が成功したことを受け、1学期には少し不満が残ったお楽しみ会をどのように作り上げていくのが楽しみな話合いでもあった。1学期とは違い、男女関係なくたくさんの意見が出された。たくさん出てきた意見の中からそれぞれに出された賛成意見や反対意見をもとに内容を決めることができた。また、その後の役割分担においても、前回の経験をもとに、がんばって取り組むことができた。その結果、1学期よりも盛り上がったお楽しみ会にすることができた。

5 研究結果と考察

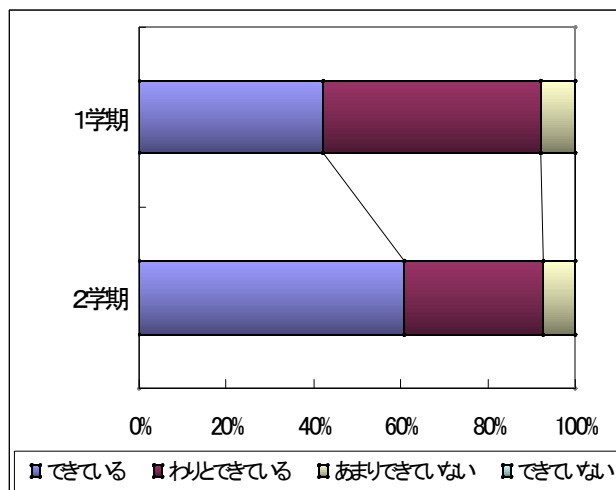
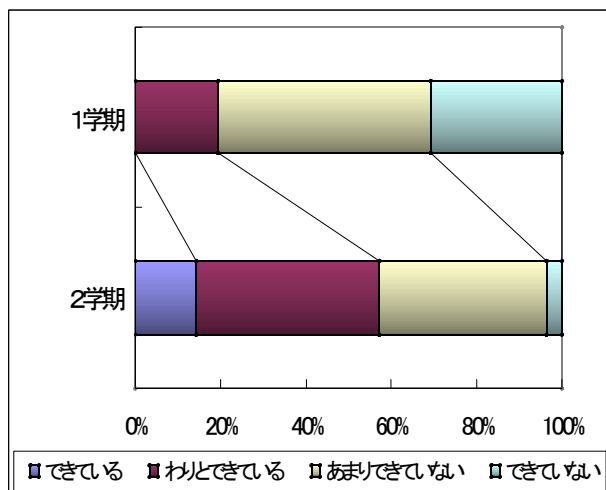
資料は、1学期と2学期を振り返ってのアンケート結果を比較したものである。

資料を分析した結果、1学期と2学期とを比べると、全体的に「できている」「わりとできている」と答えた児童が増えており、ワークショップに取り組んで学級全員で四つの具体的な目標を決めた成果がうかがえる。

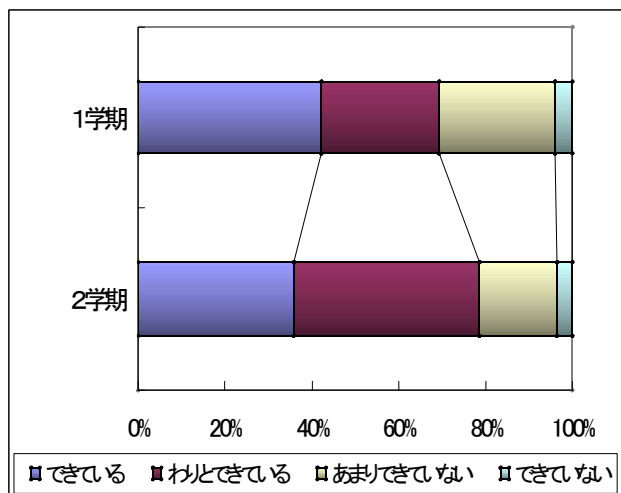
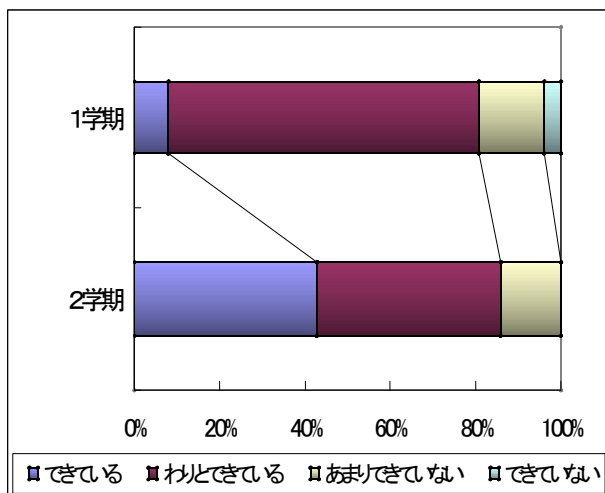
資料 1学期と2学期のアンケートを比較

①進んで議題を出すことができていますか。

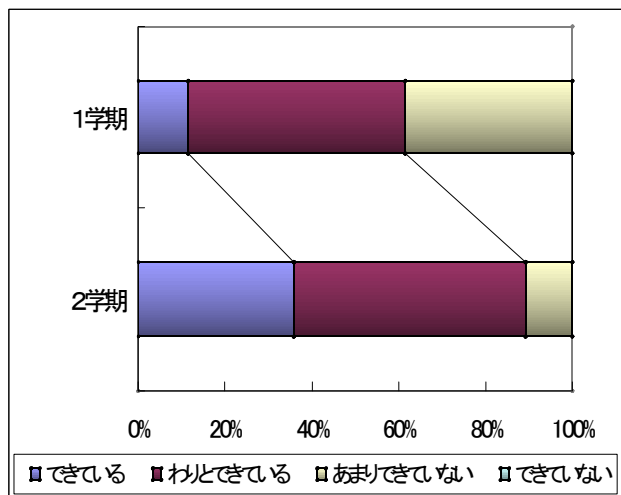
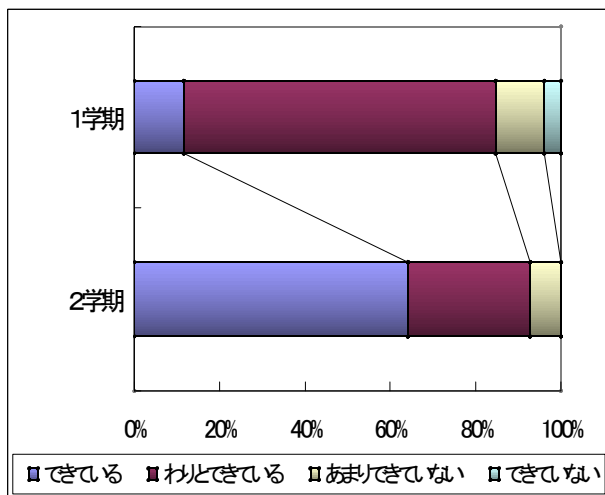
②自分の意見を持って学級会に参加できていますか。



③ 友達の意見を聞いてさらに自分の意見を考えていますか。 ④ 自分の意見を進んで発表していますか。

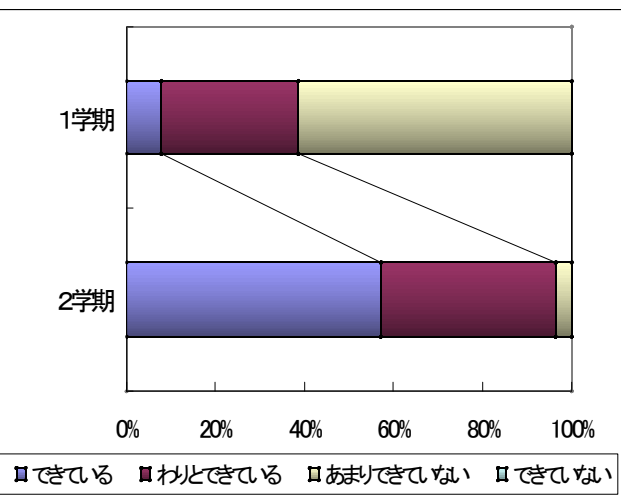
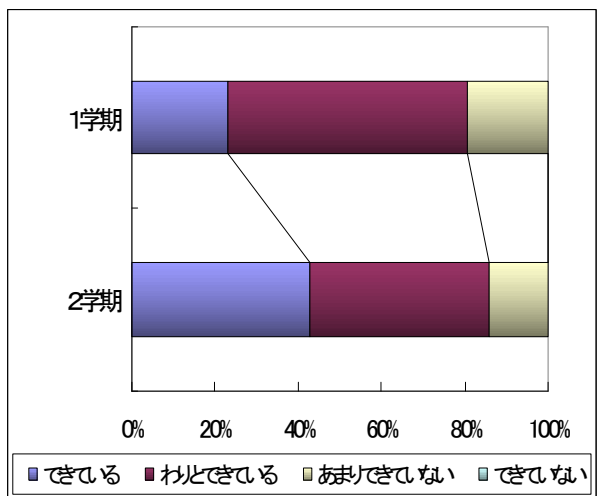


⑤ 自分がすっきりした話し合いができていますか。 ⑥ 学級みんなが納得した話し合いができていますか。



⑦ 話し合いの後、進んで活動できましたか。

⑧ 学級みんなが楽しく活動できていると思いますか。



各項目を詳しく見ていくと、①からは、進んで議題を出すことができるようになったことがわかる。これは学級会活動が近づくと、計画委員会が声をかけ、目標として決めた「意識して議題を出そう」を実現しようとした結果であると考えられる。

②からは、自分の意見をもって学級会に参加する子どもが増えたことがわかる。このことは、話し合いカードに自分の意見を詳しく書くようになった姿と一致する。これは「前もって考えておき、しっかり意見を発表し合おう」の目標を意識した結果であると考えられる。

③からは、自分の意見だけでなく、友だちの意見を聞いてさらに考えることができるようになっていくことがわかり、話し合い活動の高まりを感じる。

④からは、まだ少し発表が苦手な子どももいるが、全体を通して進んで発表しようとしていることがわかる。事前に自分の考えをまとめ、準備したことで、自信をもって意見を言えるようになった結果であると考えられる。

⑤からは、すっきりした話し合いができていると答えた児童が60%を超えていることから、ただ意見をもって参加するだけでなく、自分の意見にこだわったり、友達の意見を尊重したりしながら話し合いを進めたことが分かる。

⑥からは、特定の児童の意見だけで決定されることなく、一人一人が意見をしっかり出し合うことで、納得した結論が出せるようになったことが分かる。

⑦からは、進んで活動できる子どもが増えたことが分かる。これは納得できる話し合いができた結果であると考えられる。

⑧からは、みんなで楽しく活動ができるようになったことが分かる。「みんなのことを考えよう」という目標を強く意識し、自分勝手な思いだけでなく、相手の立場に立った考え方ができるようになった結果であると考えられる。

2学期初めのアンケートで矛盾した結果が見られた⑤と⑥、⑦と⑧において、2学期終わりには個人と学級全体の矛盾が解消された。

①～⑧の結果からは、4つの具体的な目標の中の「意識して議題を出そう」「前もって考えておき、しっかり意見を発表し合おう」「みんなのことを考えよう」について、子どもたちが強く意識して取り組んでいたことが分かる。このアンケート結果からは「お互いを注意し合おう」という目標についての変化は分からない。しかし、子どもの様子を見ておくとお互いに声を掛け合ったり、協力して準備を行ったりすることができており、注意し合う必要がなくなっているように感じる。

6 今後の課題

- 本研究で、ワークショップを取り入れ、話し合いの問題点を強く意識し、問題解決に向けて四つの具体的な目標を決めたことは、子どもが主体的・実践的な力を育てるには有効であったと考える。
- 今回、ワークショップを取り入れるにあたっては、学習指導要領の学級活動（2）として教師が子どもたちの実態に合わせ、意図的に行うものになってしまった。今後は、教師の適切な指導の下に子ども自らが気づき、関心をもたせるような学級活動（1）になるように、取り入れ方を工夫していきたい。
- ワorkshopは、指導者が子どもたちの実態を十分に把握した2学期初めに行ったが、1学期当初に行うことはできるのか、適切な時期はいつであるのかについて探していきたい。

- 本実践では、1時間の話し合いの中で子どもの主体性を高める指導の工夫については十分に取り組むことができなかった。今後、そのことについての研究を深めていきたい。

参考文献

- (1) 文部科学省（2008）『小学校学習指導要領解説特別活動編』東洋館出版 P.32-63